

---

# エスプレッソの約束

松谷ソウイチロウ

---

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

## 注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

### 【小説タイトル】

エスプレッソの約束

### 【Zマーク】

Z5895B

### 【作者名】

松谷ソウイチロウ

### 【あらすじ】

最初の恋をしてからもう10年が過ぎた。

初めての恋をしてからもう一〇年が過ぎた。

その間に私は私の魂を少しずつすり減らしてきましたよ、いつな『氣』がある。

窓の外ではしぶしぶと雪が降り続いている。

ピンク色の傘をさしながら、雪と戯れる少女の姿が田に映る。

いつかあの子も私と同じように誰かを好きになつて、恋をして、戀し合つて

そして自分を傷つけるのだろうか。

その時、背後から声がして恵子はびくと背筋を伸ばす。

「どうした？ 深刻そうな顔しちゃって。」

囁きの無い笑顔はこの世の絶壁を全て味わこつこつしたかのように見える。

薄茶色のパーの肩上にさ、室内のじつとつとした温度に形を失つていく

雪がまだ少し残つてゐる。

「雪がすいへでね。」

と当然のことを見た。口走る彼になんだか好感を持った。

20代後半には見えないその幼いマスクはテレビで見るアイドルのようだ。

純粋でいながら幾多の試練を乗り越えた男の顔だった。

円形の机の上においてあるエスプレッソに手を伸ばす。

喉は渇いていたが、久しぶりに彼にあつてどうこう顔をすれば良いか

よく分からなかつた。

隣に座るいかにも就職活動中の大学生は、買ってきたばかりであるSPRIの問題集を見るともなしに眺めていた。

ほんの数秒の動作がとてもなく長い時間のような錯覚に襲われた。

ああ、私はこの人に恋をしているんだなと思った。

口の中に広がったエスプレッソは、苦くも甘くも無くただ私の食道を通過した。

恋をすればまた同じことを繰り返すのかもしれない。

頭の中をぐるぐる駆け回る柔らかな思いはきっともうくつむつくり私の心を蝕んでいくのだろう。

彼は私の冷え切ったエスプレッソを勝手に飲んで、

「苦つ。」

と言つた。

彼の奥一重の瞳をまじまじと見つめ、ちょっとだけ笑つて見せた。

外では雪がしんしんと降り積もつてゐる。

街灯がその雪を柔らかく照らしだしていた。

(後書き)

第2作目です。恋をした女性の気持ちを描いてみました。まだまだですがこれからも継続して書いていきたいと思います。

## PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連＝横書きという考えが定着しようとっています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能してください。

---

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。  
<http://ncode.syosetu.com/n5895b/>

---

エスプレッソの約束

2010年10月12日05時14分発行